



有田2000 ロータリークラブ



No. 866

18-19年度 RIテーマ
【インスピレーションになるう】

Club Bulletin

会 長 南 良暢
幹 事 永石睦巳
クラブ会報委員長 吉水志朗

会員増強・新クラブ結成推進月間

四つのテスト 言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

例会日/毎週水曜日 19:00

事務局・例会場/〒643-0025

有田郡有田川町土生409

吉備インターゴルフセンター

TEL0737-52-8960

FAX0737-22-6800

E-mail: info@arida2000rotary.club

URL: http://arida2000rotary.club/

本日のプログラム

平成30年8月29日 第867回
ソング「我等の生業」
会長の時間 幹事報告 委員会報告
ニコニコ箱報告 出席報告
紀陽銀行 大久保 幹男様

次回のプログラム

9月5日 有田南RC直前会長 垣内欣久様
9月12日 地区少年交換委員長
岩出RC 水崎哲男様
9月19日 細則による休会

前回の報告（第866例会）

開催日 平成30年8月22日（水）

点鐘 南 会長

ソング「手に手つないで」

ゲスト

2017-2019年度

有田ロータリークラブ直前会長 成川守彦様

<現 職> 医療法人千徳会 理事（会長）

医療法人千徳会 桜ヶ丘病院 名誉院長

社会福祉法人守皓会 理事長

<公 職>

2005年5月～2016年5月

（社）和歌山県病院協会 会長

2015年4月～2017年3月

（社）和歌山県病院協会立 和歌山看護専門学校 学
校長

2016年5月～現在

（社）和歌山県病院協会 顧問

2011年7月～2017年8月

和歌山県病院厚生年金基金 理事長

2017年8月～現在

和歌山県病院企業年金基金 理事長

2007年4月～現在

（社）日本病院会 理事

<表彰履歴>

2012年11月

秋の叙勲 旭日小綬章

<国際ロータリー>

2000-01年度

人口及び開発問題研究グループ（ZONE3）

実行グループゾーンコーディネーター

2001-02年度

飢餓追放グループコーディネーター（ZONE3）

2004-05年度

保健問題タスクフォース 第3ゾーン・コ
ーディネーター

2004-05年度

水対策支援グループコーディネーター（ZONE3）

2005年/ 2006年

国際ロータリー研修リーダー

2005-06年度

Malmo-Copenhagen Convention Discussion
Group Facilitators

2006-11年度

水対策支援グループコーディネーター（ZONE
3）

2006年4月8～9日

国際ロータリー会長代理（2700地区）

2007年4月20～21日

国際ロータリー会長代理（3700地区：韓
国）

<ロータリー財団>

- *アーチ・クラフ・ソサエティ 会員 (夫婦) (2018)
- *メジャードナー レベル4 (2018)
- *ポール・ハリス・フェロー+8 (2003)
- *遺贈友の会 会員 (夫婦) (2003)
- *ベネファクター (1997)
- *ポリオのない世界を目指す地域奉仕賞 (2001-02年度)
- (恒久基金) 冠名基金「ロータリー平和センター」、冠名基金「疾病予防と治療」、冠名基金「水と衛生」
- 冠名基金「母子の健康」、冠名基金「基本的教育と識字率向上」

<ロータリー米山記念奨学会>

2016-18年度

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会 評議員

2017-19年度

公益財団法人 米山梅吉記念館 理事

<RLIロータリーリーダーシップ研究会>

2008年 5月10日

RLI日本Division準備委員会委員

2010年 7月 1日

RLI日本支部委員会委員

2011年 7月 1日

RLI日本支部特別委員会(カリキュラム等)委員長

RLI日本支部委員会ファシリテーター

<日韓・韓日親善委員会>

2002年度-15年度

ロータリー日韓・韓日親善委員会 委員

<地区>

国際ロータリー第2640地区 1999-2000ガバナー
規定審議会代表議員(2017.7.1-2020.6.30)
2018-2019年度地区研修リーダー

●会長の時間●



皆

さん、こんばんは。有田ロータリークラブ直前会長およびパストガバナーの成川先生、本日はお忙しい中お越し頂き有難うございます。

さて、私の年度が始まっておよそ2ヶ月と短い期間ですが、日本では、日大アメフトのタックル問題、アマチュアボクシング会長のガバナンス問題、東京医大の不正入試問題が社会を賑わせています。共通したことは、どれも共産主義的な考えのトップが、組織を動かしている幹部たちを抑圧していることだと思います。なぜそこまで酷くなるまで気付かずに見過ごされてきているのでしょうか？たいていは、トップが威厳を持った段階から、トップに異論を唱える人物を排除して、自分に都合の良い人物たちで組織されてきたからではないでしょうか。

織田信長を好きだという人がたくさんいます。でも実際、信長が主君だったらどうでしょう？嫌ではありませんか。信長は、部下の誰よりも早く会社に来て、みんなが帰っても自分は帰ろうとせずに最後まで会社に残っていますそうです。仕事も誰が何をしたのか、成果がどのくらい上がっているのか、全部チェックし、ほんの少しでもあくびをしようものなら厳しい叱責が降ります。こんな上司は嫌ではありませんか。そんな信長ですが、若い時は意識決定をする際には、話し合いの場を設けています。実際は、自分の中ではすでに決まっている結論を、あえて重臣たちに意見を聞きます。これは一見話し合いのように見えて、実は話し合いではありません。しかし、重臣たちは一応意見を述べているし、話し合いをしてみんなで決めた気持ちになるので素直に信長に従いました。日本人は話し合いをしなければダメだということを知って努力をしていたことになります。話し合いを絶対的に好むことの逆は、決断力に秀でた独断専行型の人を嫌うことでもあります。信長は壮年期になるとワンマンになってしまい、独断専行型の政治家の末路は、大久保利通もそうですが、暗殺されてしまいます。独断専行型のリーダーは、外国人からは評価されますが、日本人の

中では評価が低いようです。それは日本が話し合い主義の国家であるからです。日本人は話し合いを絶対視するがゆえに独断を認めない、独断を認めないが故にそういう政治家は非業の死を遂げることが多いようです。

稟議書というものをご存知でしょうか？稟議書というのは、会議の手間を省くために書類を関係者全員に回覧して、それぞれの承認を求める書類のことで、組織のトップは全てを自分ですることは不可能なので、担当部長を設けて権限を移譲しています。ならばその段階で決裁しても良いはずですが、それをすればワンマン部長と揶揄され、人に嫌われます。だから、日本では時間と手間をかけて稟議書を回すのですが、これほどまでに稟議書にこだわるのは、これが話し合いの代替行為になっているからです。我々のグループラインというツールを用いて場面も同じようなことが言えます。SNSは全員がある程度の時間内に既読しますが、稟議書となると決定するスピードが遅いことがデメリットとなります。稟議書であろうが、話し合いであろうが、決めた結果が間違っていたことはたくさんあります。話し合いという意思決定方法と出た結論が正しいかどうかは別の問題です。みんなで考えた話し合いで決めたことが必ず結果に繋がるという思想は、「話し合い」ということを信仰対象とした宗教となります。話し合いの深刻なデメリットは、みんなが承認するので誰が責任者なのかはつきりしないことです。これら日本人の特性を知ることによって組織運営の対策を講じていく必要があるんだと思います。

● 幹事報告 ●

永石睦巳君
○ 報告事項 ○

1. 平成30年7月豪雨義捐金について
2. 1泊例会について
3. わんぱく相撲のお礼 回覧
4. ハイライトよねやま 回覧
5. 米山梅吉記念館 秋季例祭 回覧
6. 全国統一アクトのご案内 回覧
7. 地区大会記念ゴルフ大会開催のご案内 回覧
8. 芝毅君 拝眉の上お礼
9. 国連支援募金お礼

● 出席報告 ●

浦崎寿光君



● 8月誕生日お祝い ●

大浦輝彦君

おめでとう
ございます！！



● ニコニコ箱報告 ●

成川守彦様： 有田ロータリークラブ 本日卓話をさせていただきます。久しぶりの訪問です。

南良暢君：有田RC直前会長 成川守彦様 お忙しい中お越し頂き有難うございます。本日よりしくお願い致します。

大浦輝彦様：みなさんこんばんは 成川有田RC直前会長様 本日はようこそおいで下さいました。卓話宜しくお願い致します。

永石睦巳君：成川先生 本日は宜しくお願い致します。

前任君：成川有田RC直前会長様 本日は貴重な卓話宜しくお願い致します。

● 卓話 ●

2017-2018 有田ロータリークラブ直前会長 成川守彦様

「人身受け難し、今已に受く

～ロータリーの心～」



「人身受け難し、今已に受く」とは、「生まれ難い人間に生まれることができてよかった」という喜びの言葉であり、「よくぞ人間に生まれたものぞ」という生命の大歓喜であります。人間に生まれることはいかに有り難く、喜ばねばならぬ。

もうきふぼく たどえ

「盲亀浮木の譬」・・・人間の誕生

私達人間がこの世に生まれてきたのは、何かその人でなければできないような、ある使命を帯びてこの世に派遣されたものと言えます。派遣された意味をつかむのは、各人に課せられた課題であって、相当優れた人でも、それをつかむには人生の半ば近い歳月を要します。しかし、それをつかみ努力を傾注した時、その人の人生は輝き出すのです。

我々ロータリアンは、ボランティアとして多くの奉仕活動を行っていますが、マザー・テレサ

	会員数	出席者数	出席率
本日の出席	16名	10名	62.5%
8月 1日	16名	14名	87.5%

さんは、「私たちは、何か身体(からだ)を使って奉仕することや金銭的に支援することを、ボランティアであると勘違いしています。」と話されています。けれども、「そこに心から溢れ出る愛がなければ、喜びも平和もない」とマザーは言います。たとえ小さなことでも、そこに心をこめて行うこと、その大切さをマザーはいつもおっしゃっているのです。

大切なことは、自分を犠牲にして分かち合うという心です。自分の古着を貧しい人々に与える。食べ残したものを与える。それは分かち合うということではありません。自分自身が痛みを覚えてこそ、分かち合うということになるのです。愛には痛みがともなうとはそういう意味なのでしょうね。

私たちが 次世代の子どもに残すべきものは、財産でも立派な家でもありません。互いにわかり合い、助け合い、補い合う心だと思います。ロータリー活動を通じて、そのように生きていきたいものです。



イギリスのアン王女がポリオ撲滅におけるロータリーアンの尽力に感謝



国際性あふれる
インスピレーション



国際大会 トロント (カナダ)
2018年6月23日～27日に参加された様子を紹介して頂きました。

